

第2学年 算数科学習指導案

1 単元（教材）名

「長さをはかってあらわそう」

2 研究との関わり

- ・生活科の学習で、ミニトマトの葉の大きさを表すのに、手のひらの大きさをもとにしたことから、ものの長さを予想する際、親指と人差し指の間の長さをもとに予想をする。
- ・親指と人差し指の間の長さを知ること、その長さを頼りにして他のもののおよその長さがわかる。しかし、親指と人差し指の間の長さは人によって異なるため、万国共通のメートル法が有用である。

3 本時の学習指導

(1) 目標 親指と人差し指の間の長さをもとに予想を立て、問題を解決することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

| 学習活動 | 学習内容 | ○指導上の留意点 ※評価 ☆教科横断 ★生活の場面 |
|---|---|--|
| <p>1 問題を把握する。</p> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>親指と人差し指の間の長さをもとに、他のものの長さを測ろう。</p> </div> <p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親指と人差し指の間の長さのもとに、身の回りの物の長さを予想する。 <p>(2) 調べた結果を整理し、実際の長さを測る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ものの長さのはかり方 ・ものさしの使い方 | <p>☆生活科の学習で、ミニトマトの葉の大きさを表すのに、手の大きさを活用したことを想起させ、同じような方法でものの長さを測ることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>生活科の学習では、手のひらの大きさをもとにして、ミニトマトやナス、ピーマンの高さを記録しましたね。</p> </div> <p>○二人組で活動し、長さを測るときには親指と人差し指の間の長さをもとに、それぞれ実際の長さの予想し、ワークシートに記入させる。</p> <p>※親指と人差し指の間の長さをもとに予想を立て、問題を解決している。【思考・判断・表現】</p> <p>○体の一部と使って測ると、人によってバラバラであることから、既習のものさしの有用性に気付かせる。</p> <p>○測るものによってはものさしを平面的にあてるのではなく、立てるなど工夫が必要であることに気付かせる。</p> |
| <p>4 本時のまとめをする。</p> | <p>○本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の一部の長さを知っておくと、その長さを頼りにほかのもののおよその長さがわかること | <div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「親指と人差し指の間の長さ何個分」で、もののおよその長さがわかります。普段の生活でも活用できると思いますが、親指と人差し指の間の長さは人にや年齢によって変わるので、誰がはかっても同じになる cm や mm のほうが使いやすいですね。</p> </div> |
| <p>5 振り返りをする。</p> | | <p>★親指と人差し指の間の長さを使えば、もののおよその長さがわかるが、親指と人差し指の間の長さは人にや年齢によって異なるため、万国共通のメートル法が有用である。</p> |

4 板書計画

㉑ おやゆびと人さしゆびの間の長さをもとに、ほかのものの長さをはかろう。

㉒ やり方

①二人組になり、自分のおやゆびと人さしゆびの間の長さをもとに、よそうをする。



人によって長さがちがう

②ものさしで長さをはかり、きにゆうする。

㉓ 体の一部の長さをしておくと、それをたよりに、ほかのもののおよその長さがわかる。

㉔